

沖縄事業再生

4月 総会・勉強会のご案内 (第97回)

2024年3月22日
沖縄事業再生研究会
代表理事 与世田兼稔、竹下勇夫

場 所：沖縄振興開発金融公庫 5階会議室
日 時：2024年4月12日(金) 18:00~19:50

(総会等) 18:00~18:10

1. 第20回定期総会(2024年3月期)の実施
2. 会員入会申込者の承認について
3. その他

(勉強会) 18:10~19:30

(質疑) 19:30~19:50

**【テーマ】絶対にあきらめない！地域と共に存続
を目指す銚子電鉄の挑戦**

講 師：銚子電気鉄道株式会社 代表取締役 竹本 勝紀 氏

【講演等の概要】

銚子電鉄は全長 6.4Km の小さなローカル鉄道です。これまでの歩みは決して平坦なものではなく、数度に亘り廃線の危機に瀕し、その都度、奇跡的な復活を遂げるという稀有な歴史を辿って来ました。そして昨年7月、お陰さまで開業100周年を迎えることができました。弱小私鉄の銚子電鉄は何故生き残ることができたのか。実際に起きた数々のエピソードを交えつつ、銚子電鉄の存続に向けた取り組みについてお話しします。

【講師ご紹介】

1962年(昭和37年)千葉県木更津市生まれ 税理士、千葉科学大学非常勤講師(財政学担当) 慶応義塾高校を経て慶応義塾大学経済学部卒業。県内の税理士事務所に勤務の後、平成21年に竹本税務会計事務所を開設。平成17年より銚子電気鉄道株式会社の担当税理士となり、同20年社外取締役、同24年12月代表取締役に就任。平成28年 甲種動力車操縦者運転免許を取得。

- 【著書・論文】・崖っぷち銚子電鉄 なんでもありの生存戦略(共著)イカロス出版(2019年)
・CVM法による生産緑地の環境便益評価(Estimation of Environmental Benefit on Agricultural Land District by CVM)(日本地域学会:学会発表・審査付論文)
・生産緑地が有する環境保全機能の経済的評価(Economic Estimation of Environmental Preservation Function on Urban Agricultural Land)(環境共生学会:審査付論文)
・定期借地権の相続税評価に関する一考察(日本不動産学会 学会発表)ほか

【マスメディア出演】カンブリア宮殿(テレビ東京)、シューイチ、ニュース every(日本テレビ)、TVタックル、ワイドスクランブル(テレビ朝日)、視点・論点、おはよう日本(NHK)ほか

(紹介者:公認会計士 庄司基晴)
沖縄事業再生研究会(事務局)
日本公認会計士協会沖縄会
E-mail: okinawa@sec.jicpa.or.jp
Tel 996-3750 Fax 996-3811
(担当:與古田)

第 97 回勉強会

絶対にあきらめない！

(2024 年 4 月 12 日) 地域と共に存続を目指す銚子電鉄の挑戦

講 師 銚子電気鉄道株式会社 代表取締役 竹本勝紀氏

紹介者 公認会計士 庄司基晴氏 (参加者 32 名)

【ご講演の概要】

銚子電鉄は全長 6.4km の小さなローカル鉄道です。これまでの歩みは決して平坦なものではなく、数度に亘り廃線の危機に瀕し、その都度、奇跡的な復活を遂げるといった稀有な歴史を辿って来ました。そして昨年 7 月、お陰さまで開業 100 周年を迎えることができました。弱小私鉄の銚子電鉄は何故生き残ることができたのか。実際に起きた数々のエピソードを交えつつ、銚子電鉄の存続に向けた取り組みについてお話しします。ということで、竹本社長が、銚子電気鉄道の顧問税理士(2005 年)から、社外取締役等を経て、2012 年 12 月代表取締役に就任し、同社の経営再建へ向けた活動、(いろんな事件等)をお話いただいた。

【受講記と感想】(事務局)

聴講しながら、印象的だったこと、示唆を受けた点等を要約してみた。1600 年頃、徳川家康が利根川の流れを南から東へ移すことを試み、その 50 年後、利根川は太平洋に注ぐようになった。続いて武蔵野の東側の開発が進み、徳川、明治を経てその東端が銚子港として日本有数の沖合漁業の中心地となった。そんな千葉県銚子市を走る銚子電は、全長 6.4 km、終点までの乗車時間 19 分のローカル鉄道である。「廃線寸前」、「倒産の危機」など「まずい」状況がメディアにたびたび取り上げられている。



2006 年代表者による横領事件により、会社は千葉県と銚子市からの補助金が打切られた。このピンチを切り抜けるための方法は、利益の上がらない鉄道という事業ではなく、人気商品であるぬれ煎餅の売上を伸ばすことだった。その販売方法は職員の行商とインターネット販売であった。品質の向上を図り、懸命の販売を行ってもなかなか成果は上がらなかった。行き詰った中で、当時の山崎経理課長補佐は、“ぬれ煎餅を買って下さい！！電車の修理代を稼がなきゃいけないんです！！”というお願い文を公式サイトに掲載した。するとぬれ煎餅の注文が殺到し、納品が間に合わないほどの注文が殺到した。プライドも何もかもかなぐり捨てた熱意と行動が人を動かしたのである。

2011 年 3 月の東日本大震災では観光客が激減し、鉄道部門の売上は落ち込み、経営は維持できない段階に陥っていた。更に、2019 年 9 月の千葉県上陸の台風 15 号の大打撃、続く 3 年間のコロナ禍は、1 日の売上が 4,480 円という記録まで打ち立てた。そんな中で、竹本社長が、労使一体の再生計画を立案し、販売と運賃改定をかかげ、県と市は 10 年ぶりに補助金を復活させた。竹本社長の“絶対にあきらめない！”経営の“奮闘”と“アイデア経営”が、第二の主力商品“まずい棒”の開発にもつながり、銚子電鉄の再起の実現に貢献した。

琉球新報 2024 年 05 月 24 日付 5. 経済

変化に応じ自己変革を

銚子電鉄の竹本社長講演

ユニークな物品の販売やイベントの仕掛けでローカル鉄道の経営を維持



ユニークな物品の販売やイベントの仕掛けでローカル鉄道の経営を維持する銚子電鉄（千葉県）の竹本勝紀社長。写真がこのほど、沖縄事業再生研究会に招かれ那覇市内で講演した。竹本氏は自身の経営理念について「必要なのはお金ではなく、時間、活力、イマジネーションだ」と話し

た。競争社会を生き抜くには、環境の変化に応じて小さなことでも自己変革を続ける「ミルフィユ改革」が重要だと説明。「大切なのは『より一層』という考え方だ」と強調した。

昨年開業100年を迎えた銚子電鉄は、自動車社会の到来などで過去に何度か存続の危機に立たされたが、学生や高齢者の移動を支えるローカル鉄道として存続してきた。鉄道部門単独では赤字のため、有名菓子を自虐ネタで模倣して本家に「黙認」されているという「まずい棒（マズい棒）」が経営状況が「や、

地元特産の「ぬれ煎餅」などの物販が話題を呼び、その売り上げが経営を支えている。

講演で竹本社長は、現在目指しているのが「乗って楽しい日本のエンタメ鉄道」だと説明。

株主にはかつて、鉄道事業を廃止して物販会社になるよう提案されたというが、竹本社長は「銚子が電車を止めたら、支持する人はいなくなる。ローカル鉄道の使命は住民の移動手段の維持、広告塔、情報発信基地だ。商品開発も地元産業とのコラボを意識している」と経営理念の大切さを強調した。（島袋良太）